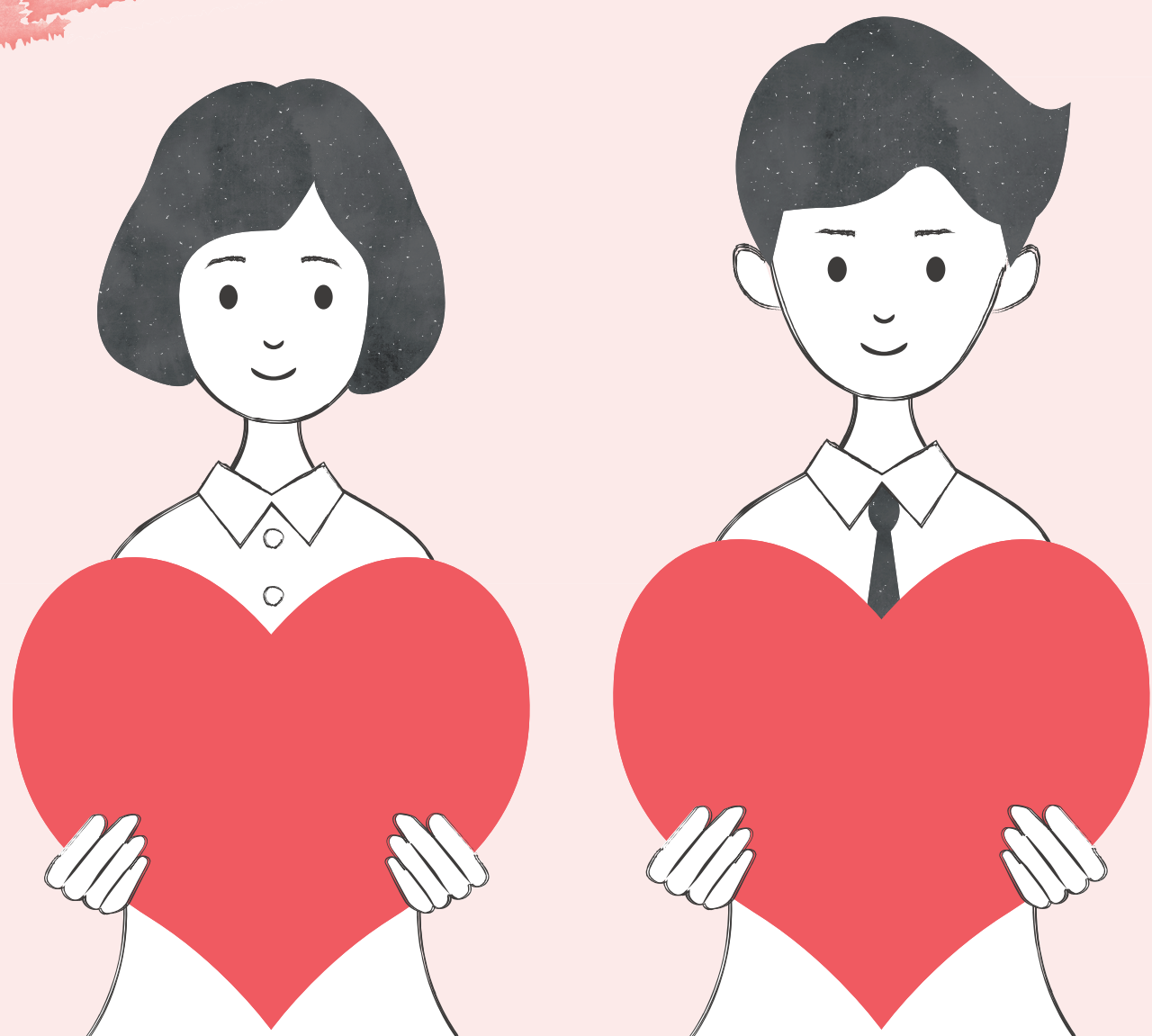


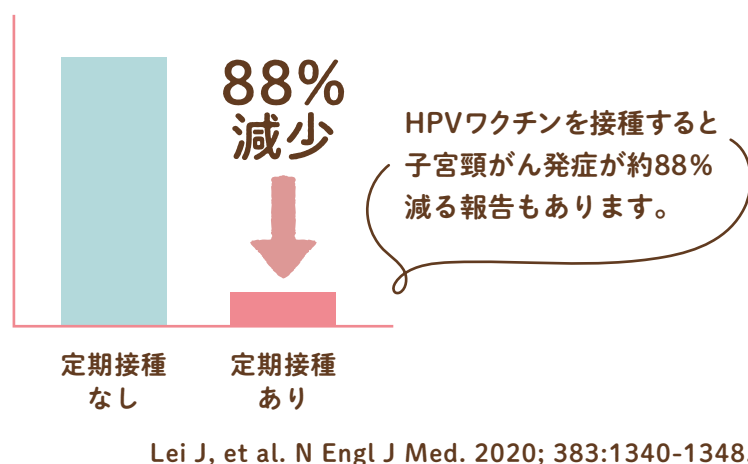
子宮頸がんは、HPVワクチンで予防できます。



HPV（ヒトパピローマウイルス）は、子宮頸がんだけでなく、
肛門がん・陰茎がん・中咽頭がんなど、男女ともに関わるウイルスです。

海外では HPV ワクチン接種率が
80%を超える国もあります。
早い時期の接種ほど、高い予防効果が期待できます。

浸潤子宮頸がんの予防効果



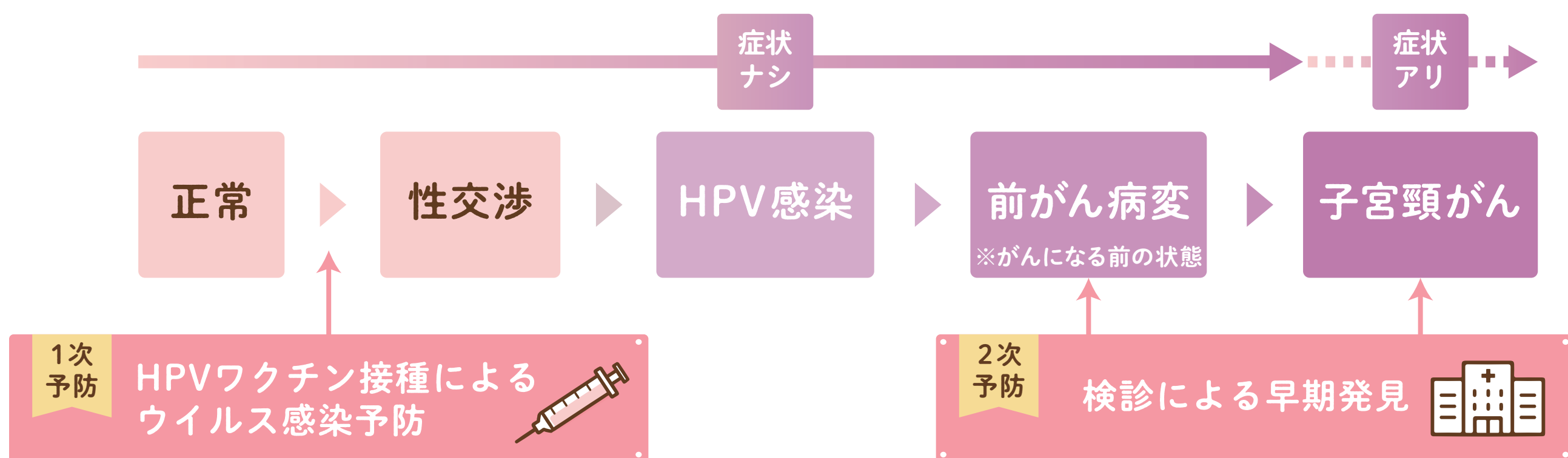
HPVワクチンを接種した女の子の割合(2022年)

カナダ	86.0%
オーストラリア	80.3%
イギリス	67.3%
アメリカ	63.8%
ドイツ	53.4%
フランス	41.5%
イタリア	38.8%
日本(2023年)	13.1%

全世界で90%の接種で
子宮頸がんを
排除できる可能性が
あります。

厚生労働省 定期の予防接種実施者数
厚生労働省 HPV感染症リーフレット(詳細版)

HPV ワクチン接種だけでなく、定期検診による早期発見も大切です



ワクチン接種スケジュール

初回→2か月後→6か月後の計3回接種が必要です。接種の際は、副反応や学校行事の時期を考慮し、2回目・3回目も含めて余裕をもったスケジュール計画をおすすめします。

シルガード®9 9価ワクチン

1回目の接種を15歳になるまでに受ける場合



1回目の接種を15歳になってから受ける場合



3種類いずれも、1年以内に接種を終えることが望ましい。

※1: 1回目と2回目の接種は、少なくとも5か月以上あけます。5か月未満である場合、3回目の接種が必要になります。

※2・3: 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の2か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上(※2)、3回目は2回目から3か月以上(※3)あけます。

※4・5: 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の1か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上(※4)、3回目は1回目から5か月以上、2回目から2か月半以上(※5)あけます。

ガーダシル® 4価ワクチン



サーバリックス® 2価ワクチン



※6: 令和8年度からサーバリックス及びガーダシルを定期接種で用いるワクチンから除き、シルガード9のみが定期接種で用いるワクチンとなる予定です。

※7: HPV ワクチン接種後には、接種部位の痛みや腫れ、赤みなどが起こることがあります。まれですが、重大な副反応(ギラン・バレー症候群、血小板減少性紫斑病、急性散在性脳脊髄炎(ADEM)、その他の副反応)が起こることがあります。

定期接種対象者

小学6年生～高校1年生相当の女性

女性の定期接種(公費接種)の期間は **高校1年生の3月31日まで**です。

高校1年生の9月までに1回目の接種を済ませることをおすすめします。



京都府立大学法人
京都府立医科大学
KYOTO PREFECTURAL UNIVERSITY OF MEDICINE



子宮頸がんは
HPVワクチンで
予防できます



ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種
に関する相談支援・医療体制強化のための
地域ブロック拠点病院整備事業

詳しくは厚生労働省のホームページへ

厚労省 HPV

検索

